

様式第 2 号

視察研修先	地方議員研究会	氏名	児玉 崇
視察研修項目	令和 8 年度予算審議集中講座		
<p>1. 講座の目的と概要</p> <p>このたび受講した講座は、元福岡市財政調整課長として豊富な実務経験を持つ今村寛氏を講師に迎え、主に自治体議員を対象に、予算審議の本質的な理解と効果的な質問技術の向上を図ることを目的としたものであった。</p> <p>具体的には、財政の「数字」の背景にある政策意思を読み解く力と、議会での質疑を通じて行政の質を高め、市民に説明責任を果たすための実践的スキルを学ぶ内容であった。</p> <p>2. 「数字の奥に隠された自治体財政の勘所」で学んだ主要点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般財源と特定財源：自由に使える「一般財源」は限られており、その多くが公債費(借金返済)、扶助費(社会保障)、人件費といった「義務的経費」で占められる。 そのため、自治体が裁量できる政策経費はごく一部である。</li> <li>・ 「財政が厳しい」と言われる正体：過去の政策決定による経常的経費(ランニングコスト)の増加が、新規政策に投じるべき政策的経費を圧迫している状態である。</li> <li>・ 財政健全化は目的ではない：財政健全化は、新たな政策を推進し、市民との約束(基本計画)を実現するための「手段」である。したがって、単なる歳出削減ではなく、「何を残すか」という視点で既存事業を見直す(スクラップ)ことで、新規事業(ビルド)の財源を確保する「ビルド&amp;スクラップ」の考え方が重要である。</li> </ul> <p>3. 「議員力を示す質問術」で学んだ主要点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算審査の 3 つのチェックポイント ( Action、Vision、Flame )</li> <li>① Action (事業内容の磨き上げ)：個別事業の有効性・効率性を検証する。 成果の測定方法と中間評価を事前に確認することが重要である。</li> <li>② Vision (将来像の実現)：その事業が、総合計画で示された将来の都市像の実現にどう貢献するかを問う。優先順位は首長の気まぐれではなく、計画に基づくべきである。</li> <li>③ Flame (枠組みの堅持)：財政規律や将来負担の観点から、持続可能性を確認する。中期財政見通しや財政健全化指標を活用し、「見えない時限爆弾」を可視化する質問をする。</li> <li>・ 「昨年との違い」を聞くのは無意味：単なる金額の増減より、なぜその事業が必要か、どういう成果を目指すか、その成果はどう測るかを問うべきである。</li> </ul>			

- ・ 議会は「劇場」であり、議員は「アバター」である： 議場は市民の代わりに行政と対話する場。本番(本会議)前に、当局との繰り返される対話や綿密なヒアリングを通じて相互理解を深め、本番での質疑の質を高めることが重要である。
- ・ 質問の目的は「未来の市民との対話」： 答弁は質問者だけでなく、市民や未来の世代に向けられたものである。質問を通じて行政の考えを引き出し、市民の行政リテラシーを高めること、ひいては行政と市民をつないでいくことが議員の役割である。

#### 4. 総括と所感

本講座を通じて、予算審議は単なる監査やチェックではなく、限られた資源をどう配分し、どのようなまちの未来を創るかを市民と共に決める、最も重要な政策形成の場であることを強く再認識しました。この認識に立つと、以下の視点が一層重要であると感じます。

まず、継続事業の検証と見直しの勇気が求められます。慣例となった事業であっても、PDCA サイクルに基づく客観的な成果検証が必要であり、効果が伴わなければ、財政制約(懐事情)の中で「何を残すか」という視点から、見直しや廃止を提案する姿勢が議員には欠かせません。

次に、市民の代表としての自覚と説明責任です。議員は市民の多様な意見を集約・代弁する存在として、財政の基本と政策の論理を深く理解し、丁寧な質問を通じて当局の考えを引き出し、市民に自信をもって説明できることが求められます。

そして、日頃からの当局との対話と情報共有の重要性を改めて痛感しました。議会は「劇場」であり、その内外での「対話」が質疑の質を決めます。議場での質疑のみならず、日頃から当局と建設的な対話関係を築き、情報を共有し合うことが、深い相互理解と実効性のある審議につながります。

特に「財政健全化は目的ではなく手段である」という指摘は、数字だけを追うのではなく、その先にある市民の暮らしや将来像を見据えることの重要性を強く印象づけるものでした。

今後は、学んだ「対話」を重視したアプローチと「Action、Vision、Flame」の視点を実践し、市民から預かった貴重な財源を何よりも重んじながら、多様な視点から検討を深め、建設的な提案を通じて市政を前に進める一助となれるよう努めてまいります。